

2014年度 決算説明会 質疑応答要旨

お断り：この要旨は決算説明会での質疑をご参考として掲載するものであり、一部補足を含め簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

記

1. 開催日 : 2015年5月22日(金)
2. 場所 : 本社 会議室
3. 質疑応答内容:

<Q1>

2016年度からの新中期経営計画は、現状の2020年度ビジョンに沿った形となるのか、2020年度ビジョンを大きく見直すのか教えてほしい。

<A1>

新中期経営計画では、次の2025年度ビジョンも意識しつつ、足下の状況、実力を見ながら2020年度ビジョンの達成可能性を確認していく。

<Q2>

英国市場への取り組みにおいて、FIT制度上での神鋼環境ソリューションの技術の優位性を教えて欲しい。

<A2>

英国の電力事情は発電所の老朽化が進んでおり、政府は電力確保対策として、ごみ焼却発電に対するインセンティブを設定している。大型焼却発電案件の建設はほぼ一巡し、次のステップとして、政府は中規模ごみ焼却発電施設の中で優位性のある流動床式ガス化溶融技術にインセンティブを設定している。ごみ焼却の技術は、日本勢が世界の技術のリード役になっており、流動床式ガス化溶融技術に於いては、当社は日本国内の実績から英国でもトップクラスの評価を得ていると考えている。

<Q3>

英国での中規模ごみ焼却発電の案件数はどの程度か、また英国市場での受注目標を教えて欲しい。

<A3>

当社は少なくとも10数ヶ所あると見ているが、英国の機関(ETI)の発表では、案件数は50ヶ所との情報もある。但し、海外特有の事業リスクもあり、まずは1つの海外案件を仕上げるのが重要と考えている。よって、現時点では具体的な数値を挙げるのではなく、1案件を着実に仕上げ、その結果を踏まえて今後展開していく。英国での実績が出来れば、グローバル展開に繋がってくると思うが、リスク等を充分考慮しながら対応していく。

<Q4>

英国現地拠点の必要性について教えて欲しい。

<A4>

今後の案件展開やO&M(運転維持管理)の実施があれば、いずれは現地拠点が必要になるだろう。

<Q5>

新規事業の状況について教えて欲しい。

<A5>

放射能除染・廃棄物処理関連では、中間貯蔵施設以外の減容化設備の発注は、16年度中に収束すると考えている。中間貯蔵施設のコンセプトは現時点で未確定なため、当社がどのように貢献していけるか、今後検討していく。

木質バイオマスについては、福井での事業で6,000kW級の発電施設を建設中である。次のステップは小規模発電設備にはさらに優遇措置が取られることから、当社は流動床式ガス化炉＋エンジンでの発電を考えている。当社は下水汚泥からのメタンガス発電の実績を保有しており、その延長線上で効率の良いエンジンを検討していきたい。

微細藻類については、当面は食品・化成品用途を軸に展開してゆく。現在、1m³培養槽での生産性が約2倍化できることを確認している。次のステップとして10m³培養槽での展開を検討していく。

<Q6>

水素発生装置は単体を販売するのか、または水素貯蔵などと共にステーション全体システムを構築して展開するのか教えて欲しい。

<A6>

当社はHHOGのハードを持っており、神戸製鋼グループとしては水素ステーショントータルの技術を有している。当社はHHOGのブラッシュアップ、コストダウンを実施し、神戸製鋼グループトータルでのシナジー効果を追求してゆく。なお、CO₂フリーの水素普及には、例えば、水素製造時に夜間等の余剰電力を利用する場合、余剰電力に関わるコストが0となるような政策が必要になると考えている。水素社会実現に向けた政策等の動向をみながら、神戸製鋼グループで今後の展開を考えていく。

<Q7>

水素発生装置の受注実績について教えて欲しい。

<A7>

実績は主に、水素を産業ガスとして使用する民間企業向け、及び研究機関向け等である。再生可能エネルギーの電力を用いた水素発生装置の実績は、研究機関向けに数件実績を有している。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社の現在把握している情報、及び合理的であると判断する前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上